

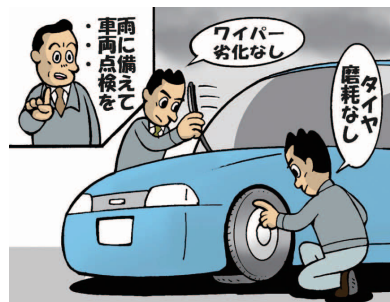
タイヤの点検が防ぐ 梅雨期のスリップ事故

①梅雨期の安全運転管理を推進しよう

- タイヤの状態を確認しておこう
- 災害発生時に備えた連絡体制の構築を図ろう

②6月11日から「カチッと100!」シートベルト・チャイルドシート着用徹底強化旬間が始まります

- 全席シートベルト着用を呼び掛けよう



梅雨に備えてタイヤをチエックしておこう

タイヤには、車両の重量を支える、駆動力制動力を路面に伝える、方向を転換維持する、路面からの衝撃をやわらげるなど、重要な役割があります。

梅雨の雨季に、タイヤが摩耗していたり、空気圧が不足していたりすると、制動距離がのびるだけではなく、スリップやハイドロプレーニング現象の危険が高まり非常に危険です。タイヤのチエックを入念に行いましょう。

もし、タイヤに摩耗等の不備が見つかった場合は、速やかに新しいタイヤに交換してください。

また、タイヤのチエックと一緒にワイパーのチエックと掃除も行っておきましょう。

災害時の連絡体制を構築しておこう

近年、豪雨や地震などの災害が多発しています。こうした災害発生時、運転者に適切な指示が出せるよう、緊急連絡体制を構築しておきましょう。

大規模な災害時は、通信が混乱し、電話がつかないケースがあります。メールやSNSの活用など、複数の連絡手段を準備しておきましょう。また、連絡手段がきちんと機能しているかも

チエックしてください。

ある事業所では、災害発生時を想定して、SNSを用いて管理者と従業員との連絡がスムーズに行えるか確認する取り組みを実施しています。

全席シートベルト着用を徹底させよう

六月十一日～二十日にかけて「カチッと100!」シートベルトチャイルドシート着用徹底強化旬間」が実施されます。事業所でもこの運動に呼応して、全席シートベルト着用を進めましょう。

警察庁とJAFが行った調査では、県内の一般道での運転席の着用率は九十九%であったのに対して、後部座席の着用率は四十一・四%と著しく低くなっています。

また、県の調べ（令和二～六年）では、後部座席シートベルト非着用死者（十八人）のうち、シートベルトを着用していれば約九割（十六人）が助かった可能性があったとされています。

運転者には、座席に座ったら、全員にシートベルト着用を促すとともに、全員のシートベルト着用を確認してから出発することを呼び掛けましょう。

また、後部座席に座る際には、率先してシートベルトを着用することを習慣づけるよう指導しましょう。